



とうふう 東風

矢巾町立矢巾東小学校
H27 校報 5号
H27.6.10
文責 校長 菅原

鼻水も吹き飛ばす!

低温注意報（吐く息が白い!）、そして、強風の中行われた今年の野外活動。5年生は4日(木)、5日(金)の日程で厳しい自然を体験してきました。強風のため、兜明神岳には岩場の中腹までしか登れなかった学級もあります。

そんな中でも、子ども達は寒さを押ししのけ、鼻水を吹き飛ばされ(?)ながらも「スマイルアゲイン」を歌ってきたそうです。涙が出るような光景です。兜明神岳の合唱。これは東小学校始まって以来の出来事。



変更となった活動
キャンプファイヤー
→ キャンドルサービス
テント泊 → 体育館泊

遠くから観る自然は美しい。しかし、一步踏み入ると厳しい世界です。厳しいからこそ美しいのかもしれない。

人も同じかと。厳しい環境を潜り抜け、鍛えられ磨

かれて美しい輝きを発していくのではないのでしょうか。

言い訳せず、自然に適応し自分を変えていくこと。これは社会という厳しい環境を生き抜いていくことと同じです。

たった2日間ですが、今回の予定外だらけの経験を潜り抜けてきた5年生、これが自信となり逞しさがでてきたようです。

風邪を引く子どもがいないか心配でしたが、2日目も予定通りのメニューをこなしました。よく頑張ったと思います。

言い訳せず
自然に適応
→環境に適応
→社会に適応
→生きる力

学び合おう
礼節を重んじ
姿勢よく

人権の花被災地交流会

○ ○○ さん
○○ ○○ さん
○○ ○○ さん
○○ ○○ さん
○○ ○○ さん
○○ ○○ さん
(4校合計25名参加)

年に一度、矢巾町人権擁護委員会の主催で、矢巾町4つの小学校の代表集まり被災地の交流をしています。東小学校からは左の6年生6名が参加

しました。訪問先内容は以下のとおりです。

宮古市立藤原小学校学童の家
人権の花植栽 子ども達との交流会
田老地区被災地学習(学ぶ防災)
現地語り部による説明

現地語り部の元田さんという方が、当時の状況や現在の復興状況について現地をご案内いただきご説明くださいました。

3時43分で止まった時計の写真が表紙に

なったパンフレットいただき、また現地でしか見ることのできない津波のDVDを見せていただきました。その内容は到底この紙面では書き表せないものでした。

一つあげるとすれば、「約120年の間に3度津波がきました。私も長生きすればもう一度経験するかもしれません。」とのこと。浜に生きる人たちの覚悟と津波を語り継いでいく思いの強さに胸打たれる思いがしました。

話は変わります。今回参加した子ども達の聴く姿勢がとても素晴らしかったことです。「聞く」と「聴く」は違います。「聴く」には目も心も入っています。さすが、矢巾町の各校のリーダー達だと感心しました。履物の脱ぎ方(出船というのだそうです。)もどの子もしっかりして嬉しかったです。

「聴く」は目と心で。
目で内容を読み取り、
心で思いを感じ取る。